

今年の冬の日高は近年にない大雪に見舞われ、加えて天候の変化がめまぐるしく、寒暖差が大きかったため、軽種馬育成調教場は融雪・氷と凍結の繰り返し状態となり、安全な馬道確保等の維持管理に大変苦労しました。現在は若馬達のトレーニングが活況を呈しており、今後の活躍が楽しみです。また、6月には屋内トラック馬場のクッション砂入替えを予定しておりますので、ご不便をおかけしますが、安全性の向上にご理解ください。

当センター研修生20名は、4月16日に一年間の厳しくも中身の濃い訓練を終え、研修で身に着けた知識と技術を携えて、全国の育成牧場へと巣立っていきます。また、今月には初々しい研修生21名(28期生)が入講してきますので、これまでの研修生と同様、皆様方のご指導・ご協力をよろしくお願いします。(Y.H.)

「たづな」欄にはJRA馬事公苑の本城敬文苑長に「乗馬で活躍」ということで、競走馬の引退後の乗用馬としての活躍について執筆していただきました。わが国の乗用馬の約7割は元競走馬という実態があり、競走馬から引退後に第二の活躍の場が開けており、その発展が期待されます。

「調査・研究」では、雪のような馬体で活躍中の競走馬「ユキチャン号」でお馴染みの白毛の原因遺伝子がわが国で解析され、世界的に高く評価されておりますので、その研究を進めてきた競走馬理化学研究所の戸崎氏に解説していただきました。「科学の箱馬車」では、馬の成長と密接な関係のある骨軟骨代謝について、臨床の立場から分かり易く解説していただきました。若馬の育成調教や健康管理に役立つことと思います。

「やさしい育成技術」では、前号から引き続いて子馬の管理法についてJRA日高育成牧場の頃末専門役に海外での経験を含めて解説いただきました。若馬にしばしばみられるDODの治療・予防に活用していただければと思います。「馬にみられる病気」では、前号に引き続き競走馬の筋組織と筋疾患について説明しました。若馬の育成調教の場で活用し、技術向上につながれば幸いに思います。(T.Y.)